

平成29年度愛知県がんセンター公開講座(第3回)のご案内
「ゲノム医療の実用化に向けて」
= 平成29年9月2日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「ゲノム(遺伝子)から考えるがん医療」

現在のがん治療において、大腸癌、肺癌、胃癌、乳癌をはじめとするさまざまな腫瘍で遺伝子異常を調べる必要があります。それは分子生物学の進歩に伴い、がんが遺伝子異常の蓄積によって生じることが明らかになるとともに、その遺伝子異常の種類によって腫瘍の個性が決まることがわかったためです。そのため、その個性の違い、すなわち遺伝子変異のタイプ、により治療方法を変えたり、その遺伝子異常を標的とする薬剤が登場したりしています。これら遺伝子異常とがん医療の関係をわかりやすく解説したいと思います。

遺伝子病理診断部 部長 谷田部 恭

「バイオバンクで実現する医療」

医学の進歩によって、以前は有効な治療法がなかった病気でも、有効な治療法が開発され、治る病気も増えてきました。この進歩は、これまでの研究による新たな発見、新しい医療技術、治療薬が開発された結果です。

より良いがん治療を患者さんへ提供するためには、これからも多くの医学研究が必要です。愛知県がんセンターでは、がん治療に役立つ研究を行うために、病院を受診した方々の生体資料や診療情報などを集め、保管・管理し、活用するバイオバンクという仕組みを作ります。バイオバンクを通じて、ひとりひとりにあった医療や予防法の開発に貢献することを目指していきます。

遺伝子医療研究部 室長 伊藤 秀美

「愛知県がんセンター遺伝性腫瘍診療の現状」

遺伝性腫瘍という言葉聞いたことがありますか？ 親から子供へ遺伝子が受け継がれていく段階で、病気の体質まで遺伝することで、非常に高い確率で発生する腫瘍のことを、遺伝性腫瘍と呼びます。原因となる遺伝子異常が既に多く同定されていて、患者さんの血液から検査ができます。また、このような遺伝子異常を持った方に、特異的に効果を示す薬剤の開発も進んでいます。愛知県がんセンターでは、様々な遺伝性腫瘍に対して最高の医療を提供できるように、院内の体制を整え、薬剤開発にも尽力してきました。本講座では当院が取り組んでいる遺伝性腫瘍に対する診療について、分かりやすく説明をしたいと思います。

副院長 兼 乳腺科部長 岩田 広治

「遺伝性腫瘍の基礎知識－遺伝カウンセリングって何？－」

遺伝カウンセリング外来は今年度、月曜-金曜日まで開設され、地域連携施設の病院やクリニックからの予約も可能となりました。遺伝医療への注目が日々高まっていますが、「遺伝」とつくカウンセリングの場がどんな内容なのか疑問に思われる方も少なくありません。講義では、数年前にアメリカの女優さんが予防的に乳房切除されたことで話題になった「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」をはじめ、遺伝性腫瘍に見られる特徴や遺伝学的検査の注意点、実際の遺伝カウンセリングで支援している内容をお話しします。

認定遺伝カウンセラー 高磯 伸枝